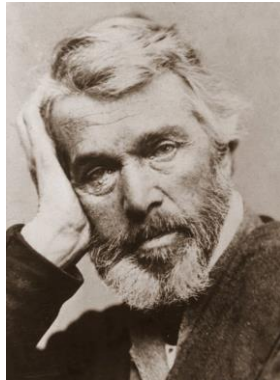


# 『Mind Charging』

第129回 発行：入試広報室 発行日：令和2年10月7日

## トーマス・カーライルの名言



**No man who has once heartily and wholly laughed can be altogether irreclaimably bad.**

一度でも心から、そして全身全霊をもって笑ったことのある人は、

救いがたいほどの悪者にはなりえない。

『心から』と『全身全霊』というワードが、人間として非常に重要なことだと改めて感じさせてくれる言葉です。人間も含め、動物や植物などの全ての“命あるもの”には心があると私は信じたいと思っています。しかし、その心を最もわかりやすく表現することができることや、心に従った行動を間違った時に及ぼす影響が一番大きいのは人間だと思います。

人間は間違えることがあります。間違いの多さは経験による成長によって徐々に減っていきませんが、ゼロにはならないと思います。なぜゼロにならないのかと言えば、やはり『心(欲求)』があるからだだと思います。もちろん主張することは大切ですが、周りに納得してもらえない主張は“わがまま”ではないでしょうか。『誰も賛同してくれなくても私はこれがしたいから迷惑をかけようが関係ない』という考え方は、この言葉にある“全身全霊をもって笑ったことがある”人ではないということかもしれません。なぜなら、そのくらい心から笑う瞬間に仲間がいないはずがないと思いませんか？そこにいたはずの仲間は自分が心を許せる人であり、その人が傷ついたりすることはしたくないと思うはずです。毎日、様々な事件がニュースで報道されますが、そういったショッキングな出来事を減らす一番の方法は『心を許せる仲間の存在』ではないでしょうか。そんな大切な仲間が正智深谷にはいるはずですから、そんな仲間に自分になるという気持ち大切です。(編集委員：入試広報室 鈴木)

トーマス・カーライル(Thomas Carlyle, 1795年12月4日 - 1881年2月5日)は、19世紀イギリス(大英帝国)の歴史家・評論家。スコットランドのダンフリーズ・アンド・ガロウェイ、エクルフェカン(英語版)出身。代表作には、『英雄崇拝論』、『フランス革命史』、『オリバー・クロムウェル』、『衣装哲学』、『過去と現在』などがある。ドイツ文学を研究したことも知られ、ゲーテとの往復書簡がある。〈全集 The works of Thomas Carlyle〉は30巻に達している。(Wikipedia 参照)